

曹洞宗 蟠龍山 護国院 芳全寺

芳 ほろろ 蓮

2024 年初夏号

手を合わす

それは誰かを想う時

令和6年初夏

No. 3



大本山永平寺 御征忌法要 焼香師委嘱に際し

この度、大本山永平寺御征

住職 荒木龍胤

忌（道元禅師御命日法要）中
に於ける一座の法要に、貫主
南澤道人禅師様に代わり、報
恩供養の大導師を務める『焼
香師』の大役に任せられました
た。当寺としては平成三年に
先代住職（故・荒木秀胤）が
務めた以来です。

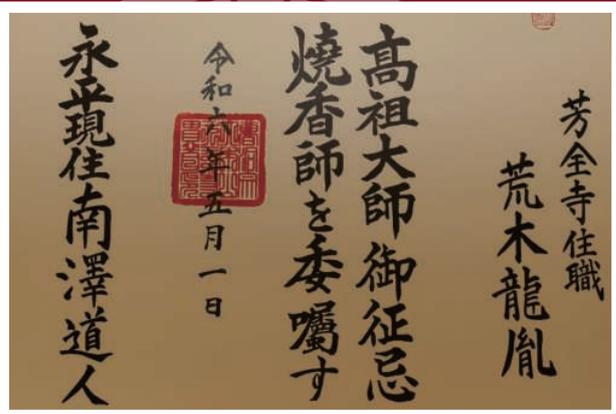
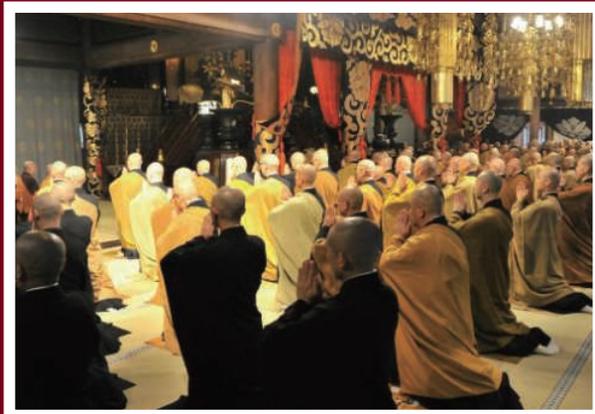
務めた以来です。

焼香師の御案内を頂いたと

現今の世相の混迷は、人々

き、自身にそれに足る素養と
資格があるか自信がありません
んでした。しかし、思えば今
こうして一介の住職を務めら
れているのも、曹洞宗の宗侶
としてここまでやってこれた
のもまさに大本山をはじめ、
宗門のお陰様なのです。

たいと考えています。



この大本山永平寺での御征
忌焼香師という機会は、通常
一生に一度とない大変名誉な
機会です。私の師匠が選ばれ
たことが大変嬉しく思うと共
に、この有り難い勝縁に随行
できることに感謝致します。
当日の法要では侍者として師
匠を支えます。それまで引き
続き精進して参ります。

徒弟 荒木玲音

「合掌の意味」

普段私たちが何となく関わっている仏事作法
その意義や型を一つ一つ紐解きながら、
皆さまと共に学んでいきます。



「合掌」

掌（たなごころ）を合わせると書いて合掌（がっしょう）と読みます。仏教徒にとって「合掌」は、寺院への参拝や仏事の時だけに行われる特別な型ではありません。例えば仏教国であるタイでは、人々の間で交わされる日常的な挨拶として、合掌が行われています。

「นโมพุทธายะ」

サワディーカップ（こんにちはー）

「ขอบคุณค่ะ」

コップンカー（ありがとうー）

私自身タイには実際に何度か訪問していましたが、現地の人々と挨拶を交わすと、その優しい「言葉」、穏やかな「笑み」、気品に満ちた「合掌」が自然と組み合わさった挨拶に、えも言われぬ温もりを感じて心が洗われます。

「合掌」には、型があります。右

の手のひらと、左の手のひら。それらを「ピッタリと合わせる」形が合掌です。五本の指は中指に寄せて閉じ、中指の先端が鼻の前に

くるようにします。

「合掌」には、意味があります。右手が相手。左手が自分。相手と自分を「ピッタリと合わせる」ことが合掌の意味です。

相手と自分を対立した存在としてとらえるのではなく、相手と自分を無関係な存在としてとらえるのではなく、相手を受け入れ、敬い、その痛み、苛立ち、苦しみや喜びを自分ごととして理解しようとする姿勢。その「慈悲心と和心」の象徴が合掌なのです。

古今東西、国家も民衆も、自分の利益や立場を守るために衝突を繰り返してきました。また、貨幣経済の発達は、信じられるのは「お金だけ」「お金さえあればなんとかなる」と、自立という名の孤独を生み出しました。

けれども、人間はどこまで行っても人間です。人の間でしか生きていくことはできません。生まれる時も誰かの世話になり、老いては誰かの世話になり、病んでは誰

かの世話になり、死んでからでさえ誰かの世話になるのです。それ故に仏教では、エゴを振りかざし、独りで生きることを諫めます。

そして生老病死の現実をしっかりと受け止め、依存でもなく、自立でもない、「相互依存」という生き方を推奨します。相互依存とは、互いに敬い、思いやり、助け合いと感謝を忘れない生き方のことです。相互依存を実現するためには、仏の教えに照らし合わせて、自己反省と自戒の念を忘れないこと。そのための型が、合掌です。

「合掌」には力があります。私達の心を浄化し、人間関係に直さと円満をもたらす力が秘められています。両掌のシワを合わせることから、しあわせ（幸せ）の型とも呼ばれています。どうぞ恥ずかしながら、普段の挨拶にそっと「合掌」を添えてみて下さい。きっと平和と幸福が広がっていくでしょう。

教師と僧侶

五〇代からの挑戦
(前編)

芳全寺徒弟 荒木^{れおん}玲音 31歳
 東北大学工学部卒
 玉川大学教育学部在学中
 一般企業に勤務後、
 令和3年大本山永平寺別院
 長谷寺にて安居
 仏教を分かりやすく伝えるため勉強中

今回のエコーは私の修行同期であり、当時の修行僧の中で最高齢である53歳で修行を満了した、市貝町海福山慈眼寺住職の國井弘紀師こうきです。

高等学校の社会科の教員として長らく教鞭を取られた後に、一念発起し修行された弘紀師。

今回はそのきっかけや修行時代の思い出についてお話していただきます。

今回はそのきっかけや修行時代の思い出についてお話していただきます。

修行のきっかけ

國井弘紀師 (以下弘紀) 平成三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

の国井弘紀師です。

高等学校の社会科の教員として長らく教鞭を取られた後に、一念発起し修行された弘紀師。

今回はそのきっかけや修行時代の思い出についてお話していただきます。

今回はそのきっかけや修行時代の思い出についてお話していただきます。

修行のきっかけ

國井弘紀師 (以下弘紀) 平成三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

三年に当時大学院生だった私は真岡高校の社会科非常勤教員としてキャリアをスタートさせました。その後、盲学校や博物館

「今しかない」というタイミングで修行に行くことを決意しました。

修行で得たこと

玲音 それが私と弘紀さんの出会いでしたね。同じ日に上山して心強かったです。修行中も事あるごとに「楽しい」と仰っていた弘紀さんの姿が印象的で思いつきで出されます。弘紀さんはどんなに怒られても元気に「はい！」と大きな返事をして、絶対にめげなかったですよ。

弘紀 そうですね笑 掃除や作業は好きですので修行は楽しかったです。毎日のように怒られ続けていましたが、「大人になつてから怒られることってないよな。とてもありがたい。」と思っていました。普段仕事でも年齢を重ねるほど怒られなくなってきましたし、自分の行いを

客観的に捉える良い機会だと考えていました。そしてこの修行を通して何事も一生懸命やることの大切さを学びました。お経本の文字は老眼で見えにくいし、中々お経は覚えられないし、大変なことも多かったです。毎日毎日、目の前の修行を一生懸命やっていたら、日々楽しくあつという間に半年が終わっていました。

玲音 指導役の先輩僧侶たちも修行道場の中の役割を全うしていた訳ですものね。あのとときの厳しい指導があつたから今があるのは理解しているのですが、当時は少しイラツとしたことも正直ありました笑

また若手の僧侶にとっては、そんな弘紀さんの存在は精神的な柱でした。自分たちより遙かに年上の方が、誰よりも真剣に修行に臨まれているのを見ると「自分たちが音を上げていられない」と鼓舞していました。



国井弘紀（くにい こうき） 56歳
海福山慈眼寺 住職

県立盲学校、県立博物館研究員、教育委員会、県内高等学校（真岡・茂木・真岡女子）等での勤務を経て、令和3年大本山永平寺別院長谷寺安居、慈眼寺の住職となり現在に至る。

弘紀 私も若い人が頑張っているのだから、負けていられないぞ！という想いがありました。あの修行では世代を超えて、お互いに助け合いながらできたことが本当に良かったと思います。

修行を終えて

玲音 弘紀さんの場合、お師匠さんのこともあり修行を終えてからが怒涛の日々だったようですね。

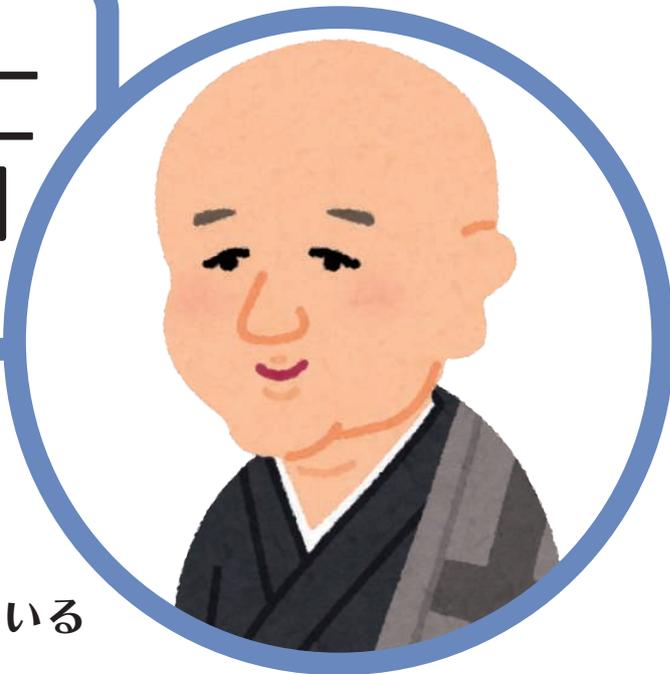
りました。その間周りのお寺さんに助けて頂き、なんとか住職の立場を引き継いで今に至ります。先代住職はかつて市貝町の町長でした。しばらく身体が悪い状態だったので最後にあまり話をする事ができませんでした。悔やまれることと言えば、そのことです。もっと話を聞きたかった、地元市貝のことを教えてもらいたかったと今になって思います。

弘紀 十月に送行（＝修行を終えること）し、翌一月に亡くな

次号につづく・・・

今回はこれからを生きる世代に伝えたいこと

道元禅師って どんな人？



2 宋国修行巡り

- # 曹洞宗を開いたお坊さん
- # 高祖承陽大師こうそじょうようだいしと尊称されている
- # 宋国で修行の本質を悟る
- # ついに正師如浄禅師に出会う

前回までのお話

1200年、現在の京都に生まれた道元禅師は、18歳の時から建仁寺みょうぜんにて明全みんぜんに師事して仏道修行に励みます。ある時宋に渡って仏道を求めることを決意した道元禅師はある道場の老僧（

- 典座和尚てんざ）に出会い、仏法の話をした道元禅師は「食事の用意は若い者に任せればいいのでは？」と言うと、「あなたは修行が全く分かっていない」と一蹴されてしまいました。

ショックを受ける

それもそのはず、当時の日本仏教界には、日常の実践を重視する禅の考えは十分に伝わっておらず、この時点ではまだ道元禅師自身、食事の用意などは、修行の妨げになる面倒な雑事だと思っていたのです。この後、道元禅師は中国各地の道場を訪ね、修行を重ねます。あるお寺でこんな事がありました。

- 暑い日の昼間、腰の曲がった老典座が、杖をつきながら汗だくになって本堂の脇で海藻を干していました。
- 見かねた道元禅師が、「こんな暑い日ですから、誰か若い人にでもさせるか、せめてもう少し涼しい日にしたら良いのでは」と声を掛けると、衝撃の言葉を返されました。

他は是吾た これわれにあらず 更に何れの時をか待たんさら いず

他の者にさせたのでは自分の修行にならん、今せずいつするというのだ

修行の本質 正師との出会い

今やるべき事はやらなければいけない。人生の時間は刻一刻と過ぎ去っていく。この言葉を聞いて道元禅師は修行とは何たるかを悟ることができました。その後宋国のお寺を巡る中で、1225年、道元禅師が26歳のとき正師しょうしとなる如浄にょじょう禅師と出会います。

- 如浄禅師は真の坐禅修行を説く高潔な禅者でした。道元禅師はそれ以後、疑問や質問の全てを如浄禅師に投げかけ、また如浄禅師も道元禅師の道心の深さに打たれて、親しく教えを説き明かしてくださいました。

如浄禅師から得た教えとは何か？ 次号へつづく



教えて住職さん！

こんな時どうするの？

質問 喪服は何回忌まで着るのでしょうか？

回答 お葬式に比べ明確な決まりは「ございませ
が、「三回忌までは喪服を」とお薦めします。

喪服は悲しみを表す装
いです。元来は遺族だけ
の装いでしたが、弔意を
表すために現代では参列
者も着るようになりまし
た。「三回忌までは喪服
を」とお薦めする理由と
して、これは深い悲しみ
にあった遺族がその頃を
境に徐々に「祥」即ち幸
いに向けて歩みだすとい
う三回忌の別名「大祥忌

(だいししょうき)に由来
します。
とはいえ、大切なのは
慣習ではなく、供養のこ
ころではないでしょうか。
マナーや常識とされる情
報が溢れ、正解を求めて
迷ったときは、自分の中
にある故人を偲び冥福を
祈る心を見つめ直して
みましょう。

芳全寺では、皆さまからの質問を受け付けています
些細なこと、気になるけど聞けなかったこと、何でもお寄せください！
QRコードを読み取って質問送付▶



芳全寺の便利な公式 LINE ができました

便利な公式 LINE のご案内

芳全寺 LINE 公式アカウントが
できました

何ができるんですか？

ご法事の申込みや、住所・電
話番号などの登録情報の変更
ができます！お寺の行事予定
やサイトの更新情報もお送り
しています！

この LINE はお寺との 1 対 1
ですので、葬祭にまつわるご
相談などもお気軽に
チャット形式でメッセージを
送ることができます

どうやって登録するん
ですか？

お友達登録はこちらから↓

ご登録お待ちしております！



② 栃木県曹洞宗青年会総会



③ 新年祈祷



① 首座法戦式



← 法戦式の様子

令和六年上半期の活動

新年祈祷

令和六年元日、檀信徒の皆様
の御多幸をお祈りするための祈
禱を行いました。

能登半島地震
復興支援募金活動

令和六年四月二十五日、宇都
宮駅にて栃木県曹洞宗青年会と
して能登半島地震復興支援募金
活動を実施しました。集まった
義援金は青年会を通して全額復
興支援のために使われます。

栃木県曹洞宗青年会総会

令和六年四月二十五日、栃木
県曹洞宗青年会総会が開催さ
れ、徒弟の玲音が今年度も引き
続き執行部員（会計補佐）とし
て補任されました。

首座法戦式

令和六年五月十八日、当山で
の夏安居（修行期間）の最大行
持として、鶏足寺（益子）徒弟
凜征を首座とし、首座法戦式を
行いました。当山住職は法幢師、
徒弟は書記の配役を務め、晴れ
渡る空の下、無事に式は円成致
しました。

社会貢献活動

当山では社会貢献活動として
ボランティア活動や非営利団体
への支援を行っています。

おてらおやつクラブ

お寺にお供えされるさまざまな
「おそなえ」を、仏さまからの「お
さがり」として頂戴し、子どもを
サポートする支援団体の協力の
下、さまざまな事情で困りごとを
抱えるひとり親家庭へ「おすそわ
け」する活動

公益社団法人ハタチ基金

東日本大震災で被災した子ども
たちへの教育支援活動

認定NPO法人フローレンス

病児保育や障害児保育、特別
養子縁組への支援活動

シャンティ国際ボランティア会

発展途上国に絵本を届ける活動

認定NPO法人キッズドア

日本国内の全ての子どもが夢や
希望を持てるよう、社会問題の解
決に取り組む活動

2024年の回忌法要早見表

1 周忌	令和 5 年 (2023) 逝去
3 回忌	令和 4 年 (2022) 逝去
7 回忌	平成 30 年 (2018) 逝去
13 回忌	平成 24 年 (2012) 逝去
17 回忌	平成 20 年 (2008) 逝去
23 回忌	平成 14 年 (2002) 逝去

※休日は混み合いますので、お早めにご相談下さい。

編集後記

寺報「芳蓮」第三号をご覧頂きあ
りがとうございました。この寺報は
「見る・知る・伝わる」をテーマに
しており、年二回の発行を想定して
います。早いもので創刊から一年が
経過しました。皆様にご読んでいた
だくための紙面や企画を考え、それ
に対して反応を頂けるのが本当に有り
難いです。仏教や宗門の勉強をしな
がらの執筆、引き続き頑張ります。
さて次回の寺報は、通常の内容と
異なり、大本山永平寺御征忌焼香師
記念の特別号を企画しています。お
楽しみに。

荒木玲音